

令和4年度事業報告

(令和4年4月1日から令和5年3月31日まで)

I 概況

新型コロナウイルス感染症が国内で確認されてから3年が経過した令和4年度は、ワクチン接種率の向上や経口治療薬などの開発などがあり、感染者は発生するものの、重症化する割合は減少し、社会経済活動は緩和の方向に動き始めました。

そのような情勢の中で当センターの対応としましては、6月の定時総会が高齢者が感染した場合には重症化する危険があることから会員の安全と健康を考慮し、前年度同様参加者を最小限にして開催しました。

また、急激に感染者が増加した8月に開催の理事会については決議を省略し、郵送にて同意書を提出していただきました。

各種会員親睦事業については協議の結果、引き続き中止としました。

我が国が超高齢社会に向かって急速に歩みを進めている中で、高齢者がいつまでも元気に活躍するシルバー事業はますますその役割を果たすことが求められています。その期待に応えるとともに、安定したシルバー人材センター運営をしていく上での指針となる「人間東部シルバー人材センター中期計画」を、会員並びに発注者にアンケート調査を実施し、集計結果を基に中期計画策定委員会で1年間にわたって議論し、策定いたしました。今後は掲げた目標を達成するため、取り組むべき施策をセンター全体で実行してまいります。

令和4年度定時総会において、理事15人、監事2人の選任が承認されました。

当センターは合併して7年目を迎え、今回大幅な役員の変更となり、理事は6人、監事は1人が新たに選任されました。なお、女性理事は2人から4人となりました。

また、会員の入会促進対策として、夫婦で会員の場合、一方の会員の会費を半額とする会費規程の改正も承認されました。令和5年4月1日から適用となります。

II 事業の概要

1 会員数

	前年度末 会員数	当年度 入会数	当年度 退会数	増減	当年度末 会員数
男	1,380人	158人	209人	△51人	1,329人
女	688人	97人	139人	△42人	646人
計	2,068人	255人	348人	△93人	1,975人

会員数は前年度末より93人減の1,975人となりました。

退会者は348人で、前年度より29人増加しました。一方、新規入会者は255人で、入会案内チラシを新聞折込みし、また感染対策をした上で定期的に入会説明会を開催しましたが前年度より93人減少してしまいました。

入会理由は、経済的理由が最も多く、50.6%、次に生きがい、社会参加が29.4%となっています。

退会理由は、死亡を含む病気(本人)が最も多く47.1%、次に加齢が12.4%となっています。また、希望する仕事がないという方が29人(8.3%)おり、この割合を減らすための施策を講じて、退会を抑制していくことが必要であります。

また、令和4年度末の会員平均年齢は75.3歳で、前年度より0.4歳高くなりました。

2 事業実績

契約金額累計は、請負契約9億4千3百万円(前年比100.7%)、派遣契約2億3千8百万円(前年比107.0%)、合計では11億8千2百万円となり、前年比101.9%、約2千2百万円の増となりました。ちなみにコロナ前の令和元年度と比較すると約2千800万円の減となっており、厳しい状況は変わっておりません。

契約金額を月ごとに前年度と比較すると、派遣業務は前年度選挙があった10月を除き毎月増となりましたが、請負業務は年度当初は契約金額を伸ばし順調でしたが、10月以降は前年を下回ってしまう厳しい状況となりました。これは、前年度の上期はまん延防止等重点措置や緊急事態宣言が発出され、公共施設は夜間休業しておりましたが、下期は解除により通常の開館時間に戻ったこと、及びコロナの影響により就業時間を減ずる変更契約があったことなどが挙げられます。また、請負契約で受託していた業務を派遣契約に切り替えた業務もあり、これも要因の一つであります。

III 事業実施報告

1 事故0を目指して、安全就業対策を進めます

賠償事故は9件発生し、前年度と同数でした。

安全委員会により事故防止対策について積極的に行い、事故0を目指していますが、状況は厳しいところであります。

草刈り機の使用により発生した事故のうち3件は、3週間ほどの間に立て続けに発生した同一作業班による事故でした。本件は重大な事故であると判断し、安全委員会にて協議し、口頭及び文書で注意をしました。

作業中の事故の発生頻度の高い植木手入れや除草作業を中心に、安全委員会委員が手分けして合計15回、48カ所作業現場を巡回し、安全防具の使用状況等気になる点があればその場で注意喚起を行いました。

傷害事故は18件発生し、前年度の21件より3件減少しました。

内訳を見ますと、ひびや骨折を負った事故が6件と多くなっています。転倒による傷害が多く発生しており、普段からの注意がより一層必要であります。

事故予防の一環として、会員向け体力測定を令和5年度より実施するため、測定員研修を福利厚生委員会委員を中心に受講していただくなど、実施に向け調整を行いました。

また、就業途上の事故も多いことから、自転車安全運転講習会をふじみ野市、三芳町において開催し、合計で19名の会員が参加しました。

2 シルバー人材センターらしい仕事を目指して、適正就業を推進します

就業交替の説明会は、希望者のみの参加ではありますが実施しました。面談については3カ所の会場で、感染対策を行った上で実施しました。

就業交替の対象については、今後拡大していくため、対象範囲や実施の難易度等について引き続き検討しました。

施設利用者や市民の方からクレームをいただくことのないよう、接遇講習会を4年振りに開催しました。4会場において、6日間にわたり計11回実施し、161人の会員が受講しました。コロナ禍での講習ということで、座学中心の内容ではありましたが、受講者へのアンケートによると9割の受講者が「研修内容は今後の業務に役立つ」と回答しており、有意義な講習会となりました。

シルバー人材センターにおける会員の就業形態は請負・委任と派遣、職業紹介がありますが、従来請負で受託していた業務について就業内容を改めて精査し、一部を派遣に切り替えるなど適正就業の推進に努めました。

3 あらゆる機会を通じて、就業機会を確保します

コロナ禍で在宅勤務者の増加が要因と考えられる自転車駐車場利用者の減少により、利用料収入減に対応するため、自転車整理業務の日数及び時間帯を見直した契約の変更があり、会員の就業機会が大幅に減少してしまいました。

生活援助サービスや障子の張替え作業など、個人家庭内での仕事については、会員と発注者の意向を確認し、双方が希望する場合に限り、訪問前に会員の健康チェック等、感染対策を行った上で実施いたしました。

7月には、参議院議員通常選挙が執行され、選挙公報の全戸配布、及びふじみ野市と三芳町では、派遣による選挙事務補助業務を受託し、多くの会員に就業していただきました。

富士見市から指定管理者として受託していました自転車駐車場管理業務は、期間満了に伴い、公募により募集が行われましたので、当センターも再度指定を受けるため応募しました。プレゼンテーションでは、会員の就業機会の確保を前提として、キャッシュレス化等新たな提案を行いました。結果は選定されませんでした。今後は期間や人数は限られますが、派遣業務として新指定管理者より受託し、会員は就業することになります。

4 強固な組織づくりを進めます

強固な組織づくりのためには、会員の確保は欠かせない事項であります。会員数はコロナの影響を大きく受けた令和2年度を更に下回り、初めて2,000人を切ってしまいました。早急により一層の会員確保対策に取り組んでいかなければなりません。

そのような状況の中ではありますが、夫婦で会員の場合、一方の配偶者の会費を半額の年額1,200円とする会費規程の改正が令和4年度定時総会で承認されました。令和5年4月1日より適用となります。

また、9月及び1月には入会強化策として、シルバーでの働き方などの紹介や入会説明会の日程を記載したチラシを新聞折込みしました。ただ、前年度のような会費無料のキャンペーンは実施せず、また、感染防止のため定員を設けて説明会を行いましたので、前年度の入会者数には及びませんでした。

サポーター活動は、コロナ禍でイベントが相次いで中止となったためできませんでした。

令和5年10月に開始されるインボイス制度についてまず理解を深めるため、理事会等で制度の説明を行い、その後センターとしての対応について協議を行いました。当該協議の結果、消費税納税の財源として事務費の値上げを決定し、発注者には理解していただけるよう丁寧に説明していくこととしました。

5 会員の融和を進めます

会員作品展は、三芳町役場2階展示スペース及びふじみ野市役所ギャラリーで開催し、49の方が、合計97点出展されました。今回、初の試みとして会員のお孫さんの作品も出展募集したところ、お一人が出展されました。

令和5年度は、時期は未定ですが三芳町藤久保公民館において実施予定です。

清掃ボランティアは、11月にふじみ野駅東口駅前通りにおいて実施しました。新型コロナウイルス感染対策としてマスク着用、トング使用を徹底の上、歩道上の清掃を会員及び職員合計29人が参加し無事に終了しました。

フェスティバルについては、現在の情勢を考慮し、開催はしないこととしました。

会員同士の親睦が図られることやセンターPRにも効果的であるので、実施について引き続き福利厚生委員会で検討することとしました。

会員親睦旅行とグラウンドゴルフ大会は中止としました。

6 積極的な PR 活動を推進します

コロナ禍で市町のイベントは中止や縮小が相次ぎ、センターPR の機会は大幅に減ってしまい、思うような活動はできませんでした。

ただ、そのような中で6月にはふじみ野市・三芳町環境センターにおいて第6回エコラボフェスタが感染対策を徹底した上で開催され、センターも出店しました。

会員手作りの手芸品などを販売し、センターのPRを行うことができました。

今後の動向次第ではありますが、限られた機会や制約がある中で、どのように行えば効果的なPR活動となるか検討が必要であります。

また、センターPRチラシのデザインや配布方法について、引き続き検討しました。

広報紙は4回発行し、第21号では「会員A氏のコロナ感染療養記」として、体験談を掲載するなど、記事の題名や内容も工夫を凝らし、親しみやすい広報紙を心掛けました。

期間限定ではありますが、構成市町のホームページにバナー広告の掲載を行い、また、郵便局内にポスターの掲示や、郵便局で使用する現金封筒や切手はがき袋に広告を掲載するなど、現在の情勢の中でできる範囲のPR活動に努めました。